

III

学部・研究科等による 取組み

III-3 埼玉キャンパス

| | |
|---------------------|-----|
| 埼玉キャンパス学年暦 | 193 |
| 埼玉キャンパスレビュー | 195 |
| キャンパス共通事項 | 197 |
| 1 学生支援 | |
| 2 進路支援 | |
| 3 社会貢献 | |
| 4 図書館〔埼玉〕 | |
| 5 自己点検・評価 | |
| 6 その他 | |
| 国際コミュニケーション学部 | 214 |
| 学部レビュー | |
| 経営学部 | 215 |
| 学部レビュー | |
| 1 学生の受け入れ | |
| 2 教育課程 | |
| 3 研究活動 | |
| 教育学部 | 222 |
| 学部レビュー | |
| 1 学生の受け入れ | |
| 2 教育課程 | |
| 3 研究活動 | |

| 10 月 | | 11 月 | | 12 月 | |
|------|----------------------------------|------|---|------|------------------------------------|
| 1 日 | 就勝合宿 淑徳小学校運動会予備日 | 1 水 | ⑥ | 1 金 | ① |
| 2 日 | | 2 木 | ⑦ | 2 土 | |
| 3 日 | | 3 金 | ⑦ | 3 日 | サイレントナイトリハーサル |
| 4 日 | [敬老の日] 振替休日 | 4 土 | | 4 月 | ① |
| 5 日 | | 5 日 | | 5 火 | サイレントナイト |
| 6 日 | | 6 月 | ⑦ | 6 水 | ① |
| 7 日 | 三芳町第7回世界一いも掘りまつり 卒論中間報告会(経営学科) | 7 火 | ⑦ | 7 木 | ① |
| 8 日 | 淑徳小学校運動会再々予備日 | 8 水 | ⑦ | 8 金 | ② |
| 9 日 | 淑徳小学校運動会再々予備日 | 9 木 | ⑦ | 9 土 | ② |
| 10 日 | 通管授業[体育の日] →10/20 | 10 金 | ⑧ | 10 日 | 公開授業成果報告書提出(後期分) 卒業論文提出締切(経営16:30) |
| 11 日 | GPA表彰式 | 11 土 | | 11 月 | ② |
| 12 日 | | 12 日 | | 12 火 | ② |
| 13 日 | | 13 月 | ⑧ | 13 水 | ② |
| 14 日 | | 14 火 | ⑧ | 14 木 | ② |
| 15 日 | TOEIC IPテスト(1年生Aクラス、他申込者対象) | 15 水 | ⑧ | 15 金 | ③ |
| 16 日 | AO入試(経営・教育) | 16 木 | ⑧ | 16 土 | |
| 17 日 | | 17 金 | ⑨ | 17 日 | |
| 18 日 | | 18 土 | | 18 月 | ③ |
| 19 日 | | 19 日 | | 19 火 | ③ |
| 20 日 | 公開授業参観予定書提出日(後期分) | 20 月 | ⑨ | 20 水 | ③ |
| 21 日 | [体育の日] 振替休日 淑徳祭準備日 | 21 火 | ⑩ | 21 木 | ③ |
| 22 日 | 淑徳祭 ホームcomingパーティー オープンキャンパス | 22 水 | ⑩ | 22 金 | ④ |
| 23 日 | 淑徳祭 秋の保護者懇談会 オープンキャンパス | 23 木 | ⑩ | 23 土 | |
| 24 日 | [文化の日] 振替休日 淑徳祭片付け日 国際交流・バス日帰り旅行 | 24 金 | ⑩ | 24 日 | [天皇誕生日] |
| 25 日 | | 25 土 | | 25 月 | |
| 26 日 | | 26 日 | | 26 火 | |
| 27 日 | | 27 月 | | 27 水 | |
| 28 日 | | 28 火 | ⑩ | 28 木 | |
| 29 日 | | 29 水 | ⑩ | 29 金 | |
| 30 日 | | 30 木 | | 30 土 | |
| 31 日 | 公開授業参観実施期間開始 | 31 火 | | 31 日 | |

| 1 月 | | 2 月 | | 3 月 | |
|------|--------------------------|------|--|------|--|
| 1 月 | 初日[元日] | 1 木 | | 1 木 | |
| 2 日 | | 2 金 | | 2 金 | |
| 3 日 | | 3 土 | | 3 土 | |
| 4 日 | | 4 日 | | 4 日 | |
| 5 日 | | 5 月 | | 5 月 | |
| 6 日 | | 6 火 | | 6 火 | |
| 7 日 | | 7 水 | | 7 水 | |
| 8 日 | | 8 木 | | 8 木 | |
| 9 日 | 初日[成人の日] | 9 金 | | 9 金 | |
| 10 日 | 授業開始 | 10 土 | | 10 土 | |
| 11 日 | ⑭ 疫期除菌時間割発表(Web) | 11 日 | | 11 日 | |
| 12 日 | 卒業論文提出締切(教育16:30) | 12 月 | | 12 月 | |
| 13 日 | 大学入試センター試験準備日 | 13 火 | | 13 火 | |
| 14 日 | 大学入試センター試験 | 14 水 | | 14 水 | |
| 15 日 | 大学入試センター試験 | 15 木 | | 15 木 | |
| 16 日 | | 16 金 | | 16 金 | |
| 17 日 | | 17 土 | | 17 土 | |
| 18 日 | | 18 日 | | 18 日 | |
| 19 日 | | 19 月 | | 19 月 | |
| 20 日 | | 20 火 | | 20 火 | |
| 21 日 | | 21 水 | | 21 水 | |
| 22 日 | 後期授業最終日 | 22 木 | | 22 木 | |
| 23 日 | 定期試験 | 23 金 | | 23 金 | |
| 24 日 | 定期試験 | 24 土 | | 24 土 | |
| 25 日 | 定期試験 | 25 日 | | 25 日 | |
| 26 日 | 定期試験 | 26 月 | | 26 月 | |
| 27 日 | 定期試験 | 27 火 | | 27 火 | |
| 28 日 | | 28 水 | | 28 水 | |
| 29 日 | 定期試験(教育) | | | 29 木 | |
| 30 日 | 追試験申込締切(13:00) 卒論発表会(経営) | | | 30 金 | |
| 31 日 | | | | 31 土 | |

【後期授業回数】 15回 授業日の表記:①～⑮(番号が記載されていない日は授業はありません。)

平成29年度 埼玉キャンパス レビュー

1. 平成29年度振り返り

● 埼玉県の大学開放授業講座（リカレント教育）

埼玉県福祉部高齢者福祉課が県内在住の55歳以上の方々を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりとしていただくことを目指した事業としてリカレント教育を行っている。この事業には、県内・近隣にキャンパスを構える19大学が協力し、授業科目の一部開放を行っている。本キャンパスでは、前期が「宗教と科学」、「地域社会論」など14科目、52名、後期が「共生論」、「地域産業振興論」など15科目、46名の受講者の受入をし、積極的に地域貢献を果たしている。

● ホームカミングデーの実施

本キャンパスの卒業生に帰属意識（愛校心）を再確認・向上していただき、旧交を温める場を提供するとともに大学祭に参加し、大学や在学生の状況を理解していただくことを目的として、毎年、ホームカミングデーを実施している。本年度は平成29年10月21日に実施し、85名（卒業生50名、退職教員4名、専任教員31名）の参加者を得た。雨天での開催となったが、例年を上回る卒業生の方にお越しいただき、参加者のアンケート結果では、好評をいただいている。課題として、ホームカミングデーを卒業生の情報交換の場として集まる機会となるようなネットワーク作りや、より多くの卒業生が参加したいと思うような企画、案内方法の検討が必要である。

● 三芳町世界一のいも掘り祭りに参加

本キャンパスでは、毎年、地域貢献の一環として、三芳町川越いも振興会が武蔵野の面影を今に伝える三芳町上富の地で、江戸時代から続く平地林の落ち葉で育てた川越いもの収穫体験イベントである世界一のいも掘り祭りに学生と教職員が参加をしている。本年度は、72名の参加者があり、受付手伝い、誘導手伝い、スタンプラリー手伝い、ゆるキャラの手伝い、いも掘り祭りのオープニングイベントの企画・実演や、子どもたちがいも版を作って遊ぶブースを提供するなど、三芳町に協力をした。学生にとって貴重な体験になっている。

● 保護者懇談会の取り組み

学生支援の一環として、保護者の協力を得ながら、学生が大学生活を有意義に過ごせるよう、年2回の保護者懇談会を実施している。

春の保護者懇談会：平成29年5月27日（土）に、経営学部では、ゼミ教員との個別面談に39名、短期海外研修説明会（2年生保護者対象）に13名、協賛会・後援会総会・学生による成果発表（サークル）に27名、保護者・教員との意見交換会（学科別）に37名、就職支援説明に46名の参加者を得て実施した。また、教育学部では、ゼミ教員との個別面談に27名、短期海外研修説明会（2年生保護者対象）に8名、協賛会・後援会総会・学生による成果発表（サークル）に25名、保護者・教員との意見交換会（コース別）に23名の参加者を得て実施した。

秋の保護者懇談会：平成29年10月22日（日）に、経営学部では、保護者・教員との意見交換会（学科別）に10組11名、就職支援説明に34組41名、ゼミ教員との個別面談に30組35名の参加者を得て実施した。また、教育学部では、保護者・教員との意見交換会（コース別）に16組22名、ゼミ教員との個別面談に22組26名の参加者を得て実施した。

保護者からは、「不安なことや就職での準備等色々聞くことができ、大学側の本気度が分かり、この大学に入学して良かった」「一人ひとりの学生に向き合って就職サポートをしていたいただき安心です。保護者の心構えの参考になった」など、保護者の方にすべての在学生における初年時から卒業時の各段階での成長を促すための様々な支援を行っていることの理解を図るよい機会になっている。

2. 次年度への課題、方策

次年度も引き続き、保護者懇談会への取り組みを充実させるとともに、地域貢献として、リカレント教育のさらなる充実や三芳町世界一のいも掘り祭りに参加するなど、積極的な取り組みをしていきたい。

以上

1 学生支援①〔学生厚生〕

| | |
|-------|-----------|
| 関連委員会 | 学生厚生委員会 |
| 関連部署 | 学事部（学生厚生） |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

次年度においても、学生が必要な支援を受けられるように教職員が連携して相談体制を構築し、学生の学校不適應の予防と解決を行っていく必要がある。また、学校不適應の予防の観点から、学生がより充実した学生生活を送れるように、正課外活動への参加の促進と支援、ならびに経済的な理由による留年、休学、退学を防ぐために大学内外の奨学金の案内も随時行っていく必要がある。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 学校不適應を理由とする留年、休学、退学の低減に努める。
- (2) 学生相談体制の整備と運営を行う。
- (3) 正課外活動への参加を促進する。
- (4) 奨学金の説明会と面談を実施する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 学校不適應を理由とする留年、休学、退学の低減に努める。
 - ア 教育活動の目標を明確に設定し、目標到達までの計画を具体的に提示し、学習意欲を増進させ、大学での学習価値を認識させる。
 - イ 教員から積極的な声かけを行い、学生の孤立防止とコミュニケーション能力の向上に努める。
- (2) 学生相談体制の整備と運営を行う。
 - ア 不適應の兆候が見られる学生については、学校不適應を未然に防止するためにアドバイザーと連携を図りながら問題解決に取り組む。
 - イ 配慮を要する学生については、学生の特性に応じて、教員、ソーシャルワーカー、カウンセラーが連携を図りながら問題解決を行っていく。
 - ウ 学内全体の相談体制を構築するために、定期的に「学生支援連携会議」を開催し、守秘義務に配慮しながら、関係部署間での連携を行い、学生支援体制を構築する。
- (3) 正課外活動への参加を促進する。
 - ア 学生の正課外活動への参加を促進するために、部活やサークルに入会しやすい環境を整備するとともに、部活やサークルの運営に関する支援を行う。
- (4) 奨学金の説明会と面談を実施する。
 - ア 希望者に対する学内外の奨学金の説明会および面談を実施する。

3 取組状況

DO

- (1) 教育活動を通じて留年、休学、退学の低減について
 - ア 留年・休学・退学者の内訳：平成29年度の留年者は全体の0.5%、休学者は0.5%、退学者は2.7%であった。
 - イ このうち学校不適應を理由とする留年、休学、退学の割合は1.0%であった。
- (2) 学生相談体制の整備と運営について
 - ア 教員、各部署の職員、ソーシャルワーカー、カウンセラーが守秘義務に配慮しながら、不適應の兆候が見られる学生、および不適應学生の支援に対して必要な支援を随時行った。

イ 「学生支援連携会議」を定期的に開催し、守秘義務に配慮しながら必要な情報交換を行った。

(3) 正課外活動の参加への促進について

ア 新たにサークルやクラブに入会しやすくするために、サークルやクラブの活動案内等を掲載した冊子を作製し、埼玉キャンパス全体では約70%の学生が正課外活動に参加した。

イ サークル・クラブを円滑に運営できるようにするために、学生厚生委員会が中心となり各サークル・クラブ、及び「サークル・クラブ連絡会」に随時支援を行った。

(4) 奨学金の説明会と面談の実施について

ア 希望者に対する学内外の奨学金の説明会及び面談を滞りなく実施した。

4 点検・評価

CHECK

(1) 現状、不適應理由については、不適應要因の背景について詳細に分析を行い、適切な支援体制についてさらなる検討を行っていく必要がある。

(2) 学生相談体制の整備と運営については、例年通り機能的に行うことができた。

(3) 正課外活動への参加促進については、ある程度達成されたが、次年度も参加促進に向けた工夫を行う必要がある。

(4) 奨学金の説明会面談については、希望者に対してすべて実施することができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

学校不適應による留年、休学、退学については、次年度以降も背景要因を検討し、その要因に合わせた支援体制の構築を検討していきたい。また、正課外活動への積極的参加をより促すために、教職員と学生が一体となり、サークル・クラブが円滑に運営できるよう引き続き支援していく。奨学金についても、今年度同様の取り組みを実施していく。

以上

1 学生支援②〔障がい学生、学習支援、GPAの運用等〕

| | |
|-------|------------------------|
| 関連委員会 | 教務委員会、学生厚生委員会、学習支援センター |
| 関連部署 | 学事部（学生総合相談支援室） |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

キャンパスとしてのバランスに配慮しながらも、極力各学部の要望に沿う形で、センターとして柔軟に対応していくことがこれまで以上に必要になると考えられる。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 方針

経営学部は一昨年度、教育学部は昨年度に完成年次を迎え、今後更なる学習支援体制の拡充も必要とされよう。その際、本センター所属の教員が各学部での学習支援体制の企画立案の際に中心的役割を果たし、併せてキャンパスとしてバランスを取ることを更に進めたい。

(2) 目標

以下の項目に関わる事項につき、学部間の調整を図りながら実現に努める。

1. 修学支援、学習支援
2. 学習状況のフィードバック

2 具体的計画

PLAN

(1) 修学支援、学習支援

ア 障がい学生への学習支援

本年度も障がい学生の学習支援のニーズはないようだが、発生した場合に備えて担当者を決め、ニーズに対応できるよう準備する。

イ アドバイザーとの連携、バックアップ

教員からの相談、問題提起に対応する。そのニーズを事前につかむため、昨年度同様、センター委員が自身の所属する学部の教員2名以上からヒアリングを行う。

(2) 学習状況のフィードバック

ア GPAの運用、表彰

GPA優秀者表彰式を年2回開催し、必要に応じて適切な改善を行う。また、GPA不振者・単位取得不振者に対する三者面談・アドバイザー面談を年2回設ける。

イ 日本語テスト・CASEC等、基礎学力データの学部・学科へのフィードバック（以下、「学力データの学部・学科へのフィードバック」と記す。）

従前同様、基礎学力に関わるデータの蓄積を継続し、必要に応じて各学部・学科へのフィードバックを行う。

3 取組状況

DO

(1) 修学支援、学習支援

ア 障がい学生への学習支援

本年度は障がい学生の学習支援のニーズはなかったが、発生した場合に備え、担当者を決め、準備を行った。

イ アドバイザーとの連携、バックアップ

教員からの相談・問題提起に対応するため、昨年度同様センター委員が自身の所属する学部の教員2名以上から事前のヒアリングを行い、センターとしての情報の共有化を行った。

(2) 学習状況のフィードバック

ア GPAの運用、表彰

前期・後期ともにGPA優秀者表彰式は無事終了した。また、GPA不振者・単位取得不振者に対する三者面談・アドバイザー面談に加え、これまで教育学部では行っていなかった1セメスター成績不振者に対するキャンパスソーシャルワーカーによるヒアリングを導入した。

イ 学力データの学部・学科へのフィードバック

従前同様、基礎学力に関わるデータの蓄積を行った。

4 点検・評価**CHECK**

(1) 修学支援、学習支援

ア 障がい学生への学習支援

目標を十分に達成（目標を100%達成）。

イ アドバイザーとの連携、バックアップ

1学部において、昨年中のヒアリングが実施できなかった（目標の70%達成）。

(2) 学習状況のフィードバック

ア GPAの運用、表彰

目標を十分に達成（目標を100%達成）。

イ 学力データの学部・学科へのフィードバック

目標は概ね達成された（目標の90%程度は達成）。

5 次年度に向けた課題**ACTION**

センター委員が自身の所属する学部の教員2名以上から行うヒアリングの時期に遅れが生じた問題は、センター内でのヒアリングの目的や方法等の共有化が不十分だったことが原因と考えられる。更に、本事案の発生した学部は、委員会構成教員の入れ替えがなされた学部である。本センターの構成員は、現在各学部から教員1名の両学部合計で2名しかいない状況にあり、新任教員は前任からの教員と一緒に業務を行いながら各学部の特性に応じた委員会業務のノウハウを学ぶ機会を持ってない。そこで、構成教員の入れ替えが行われる際には、少なくとも前任の教員と新規加入の教員とが一緒に活動を行う1学部2名体制を取ることが求められよう。

以上

2 進路支援

| | |
|-------|---|
| 関連委員会 | 学生厚生委員会、総合キャリアセンター |
| 関連部署 | 学事部（総合キャリア支援室） |
| 関連データ | 総合キャリア支援室ガイドブック、就職活動サポートブック、資格取得サポートブック、インターンシップ・プログラムガイド、保護者のためのキャリアサポートガイド、保護者向けニュースレター |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- ア 就職率 教育学部に関して、教員・保育士養成支援センターと連携し、支援体制を強化したい。
- イ 就活シミュレーション参加率 さらに参加率を高め、参加者を増やすには、面接者となる教員の一定数の確保が不可欠となり、教員の協力拡大が課題となる。
- ウ インターンシップ参加率 参加人数の増加にあわせ、インターンシップ受け入れ先の拡充が急務となる。
- エ 資格取得支援講座の参加率 これまで以上に広く周知され参加する学生が増えるような一層の対策が求められる。
- オ 就職支援満足度調査 引き続き現体制を維持し、納得感のある進路決定が出来るよう、学生一人ひとりに寄り添う支援をより強く心がける。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 活動方針

総合キャリアセンターは、キャリア開発ならびに就職活動の支援を通じて、学生の自己発見と自己実現を総合的に促進する（総合キャリアセンター規程第2条）。

新卒採用環境の好転を機に、高位志望の業種や職種に正規雇用されるようサポートを強化する。特に、就職活動開始時期の前倒し傾向に対応し、4年生を更にきめ細かくフォローアップしていく。

3年生向けには、就職準備イベントをブラッシュアップし更に魅力的なプログラムとする。

(2) 目標

- ア 外部環境に左右されない安定的な高就職率の維持・向上
就職率 95%以上（H28実績 97.0%）
- イ 3年生就職支援の強化・充実
集大成イベント「就活シミュレーション」参加者65%以上および参加満足度90%以上
- ウ インターンシップ参加者の維持
経営学部3年生参加者 前年度比100% および肯定的評価85%以上
- エ 資格取得支援講座の充実および参加率維持（延べ人数）
参加率前年度数（22.5%）を維持
- オ H30年3月卒業生に対する就職支援満足度調査
各学部満足度90%以上

2 具体的計画

PLAN

- ア 高就職率の達成および、イ 3年生就職支援の強化のために
 - ・ゼミ時間の活用やゼミ教員との協働連携体制を深めると共に、活動進捗状況、イベント参加状況等を教員と情報共有を更に行う。
 - ・保護者就職支援説明会の開催やニュースレターの発行等、保護者の理解を促進する。
 - ・未内定者向けのイベントを適宜開催し、就活をあきらめさせない意欲づけを高める。

- ・3年生の全就職支援行事を「就活シミュレーション」に結びつけ、意識を高める。「企業研究特別講義」、「キャリアデザインV」履修を教員から強く推奨してもらう。
- ・教育学部生の一般企業希望者への対応強化のため教育学部および教員・保育士養成支援センターとの連携体制を構築
- ウ インターンシップ参加者の維持のために
 - ・前年度参加学生の実習レポートを閲覧開示し、プログラムの魅力を発信していく。
 - ・より学習効果のあるプログラムとするため、フォローアップ研修の際に実習企業担当者を招聘し、成果発表会を充実させる。
- エ 資格取得支援講座への参加維持拡大のために
 - ・価格面のお得感のアピールを工夫し、保護者宛てにも積極的に周知していく。
 - ・ゼミでのパンフレット配布だけでなく、資格ガイダンスを積極的に開催する。
 - ・正課課目「ブライダルビジネス論」と連携強化しアシスタントウェディングプランナー取得を支援し、さらに寺子屋講座を復活する。
- オ 総合キャリア支援室の就職支援満足度を高めるために
 - ・計画した諸施策を確実に実行し、カウンセラーのきめ細かい就職支援を継続する。
 - ・最後の学生ひとりまであきらめさせないフォローを持続する。

3 取組状況

DO

教員の協力支援を得て、また、カウンセラーおよび支援室スタッフの多大な努力により、2. 具体的計画をすべて円滑に実施できた。その結果、就職率99.6%を達成できた。

4 点検・評価

CHECK

- ア 就職率95%以上の目標を上回る99.6%を達成した。
- イ 「就活シミュレーション」参加者65%以上・参加満足度90%以上の目標に対し、参加者48%・参加満足度95%であった。
- ウ インターンシップへの経営学部3年生参加者 前年度比100%の目標に対し、前年度82名を超える107名が参加し、達成できた。
- エ 資格取得支援講座の前年度参加率維持の目標に対し、前年度実績186名を越す237名の参加者があり、達成できた。
- オ H30年3月卒業生の就職支援満足度調査が各学部満足度90%以上の目標に対し、経営学部90%、教育学部78%であった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・高位志望の就職先内定数を増やすために筆記試験（SPI）対策の在り方を強化する。
- ・好環境下、就職支援行事やインターンシップ参加を軽んじないように引き締める。
- ・就職率100%の持続のために支援室・教員間の連携・情報共有を一層強化する。

3 社会貢献

| | |
|-------|--|
| 関連委員会 | 広報・地域連携委員会 |
| 関連部署 | 総務部 |
| 関連データ | 「H29年度子ども大学ふじみ報告書」「H29年度子どもスポーツ大学ふじみ報告書」 |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1)すでに地元関係先との協働事業が定例化しているので、次年度もほぼ同等の事業を行う。一方で、コミュニティカレッジ等の受講生の後期高齢化の進展、地元の事業予算の縮小に伴う協働事業の縮小が考えられる。
- (2)各子ども大学、淑徳大学／みよしコミュニティカレッジにおいて、国際コミュニケーション学部終了に伴い、国際教養・歴史・福祉関連等、高齢市民が関心を持つテーマを提供できる本キャンパスの人材が減少。今後は、観光関連、こども教育関連で、地域にアピールできる講演内容を練り上げ、埼玉キャンパスのプレゼンスを高めていく必要がある。
- (3)埼玉キャンパスで市民向け講座を行う場合、特に後期高齢者にとっては階段がネックになっており、参加をためらうケースが出始めていると考えられる。高齢者を大学に受け入れるのであれば、大学施設のユニバーサルデザイン化も必要である。
- (4)地元への社会貢献という点では、特定の教職員が長期的に地域に密着して、地域のニーズを掘り起こし人脈を作ることが、地元社会側から見ても求められるが、一方で、より多くの教職員が多様なチャンネルで、様々な視点から地元との交流・親睦を深め、大学の存在を太い線でアピールすると共に、多様な貢献の可能性を探ることも必要であろう。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1)地元地域と連携しながら、大学・地元地域双方が成果を得られる事業を模索、実施していく。

2 具体的計画

PLAN

- ・子ども大学ふじみ7回+子どもスポーツ大学ふじみ7回サポート（実行委員長引き受け・企画・運営に参加・講師派遣・学生ヘルパー派遣・会場提供）
- ・子ども大学みよし5回（実行委員長引き受け・企画・運営に参加・講師派遣・学生ヘルパー派遣・会場提供）
- ・淑徳大学／文京学院大学共催講座2回の企画・運営・講師選択
- ・淑徳大学／みよしコミュニティ・カレッジ7回程度の企画・運営・講師派遣（スマホ講座1回、教育講座2回、観光講座2回、音楽文化講座2回程度）
- ・所沢市淑徳大学共催講座への講師派遣 計2回
- ・富士見市夏休み宿題教室への学生派遣の仲介
- ・富士見市と三芳町のまちづくり事業、社会教育関連での協働、助言。
- ・富士見市のみずほ台西商店会、鶴瀬駅西口商店街との協働事業（みずほ台祭、鶴瀬よさこい祭り、みよしまつりへのボランティア研修学生派遣）。

3 取組状況

DO

- ・埼玉キャンパスの当委員会としては、予定していた事業をほぼ全て達成。

4 点検・評価

CHECK

- ・大学としての社会貢献・地域連携事業は、キャンパス内では、各学部で行っている「地域連携」事業があるが、広報・地域連携委員会関連の事業は、ほぼ予定通り実施できている。

- 三芳町教育委員会から次年度の「淑徳大学／みよしコミュニティカレッジ」の予算が町としては付けられないという申し入れがあり、広報・地域連携委員会は、今後の地域住民及び行政との関係もあり、また例年7回程度の講演会なので、今後は大学予算で継続し、三芳町からは後援、広報誌広告掲載、町の施設提供等で引き続き、協働関係を保つように依頼し、三芳町教育委員会からも了承を得た。また、予算の出所が大学となるため、「三芳町」の枠を外すことが可能となり、今後は、富士見市・ふじみ野市にも広報をすることが可能となる。
- 2020年は、東京オリンピック・パラリンピック開催年にあたり、三芳町がオランダ柔道チームのホストタウン（第7次登録）になるので、何が大学としてできるのか、その体制を大学・本キャンパスとしてどのように作るのか、三芳町と協議を重ね、体制づくりが必要となるであろう。一部の教員だけでなく、キャンパス一丸となった取り組みが必要と考えられる。
- 「子ども大学ふじみ」「子どもスポーツ大学ふじみ」の担当が、今まで経営学部の岩村沢也教授だったが、子ども大学のボランティア派遣学生が全員教育学部所属であり、また対象が小学生であるために、教育学部と広報・地域連携委員会の協議の結果、H30年度からは担当が、教育学部となり、実行委員長は岡野雅一教育学部教授となった。
- コミュニティカレッジ、文京学院大学との共催講座の受講者は、リピーターが多く、固定のファン層である。今後も受講者は、後期高齢者を含む高齢者である流れは変わらないように思われ、若い世代への広報浸透が難しい。

以上

4 図書館〔埼玉〕

| | |
|-------|----------|
| 関連委員会 | 図書館運営委員会 |
| 関連部署 | 図書館事務室 |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 学園祭企画を中心に、学生アドバイザーの積極的な協力を期待して、さまざま展示を継続して行う。
- (2) 本年度の内容を継続しつつ、さらに良い対応策があれば実行すること。
- (3) ガイダンス内容については、映像等を使ってさらに充実させる。
- (4) 本年度と同様の企画、ミニコンサートやゲーム企画等を行いたい。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 多様な授業の成果物や学生グループや他部署を巻き込んだイベントや展示等、新企画を実施していく。
- (2) 利用者に対して、適切なマナーを守るよう働きかけを行っていく。この点は、学生厚生が立ち上げた学生主体のマナー向上委員会と協力して、対応策を引続き実施していく。
- (3) 商業データベース利用ガイダンスは、開催時期と広報を再検討し、より多くの学生が参加できるようにする。
- (4) 学生アドバイザーの力量を向上させ、スタッフによる指導の下に図書館利用支援を担ってもらう。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 図書館の従来への企画に加え、新規の企画を増やす。
- (2) 館内利用マナーの向上を目指す。
- (3) 1年生向けの図書館ガイダンス「Step I」とデータベース活用のためのガイダンス「Step II」を積極的に行う。
- (4) ラーニング・コモنزのスペースの積極的な利用を図る。

3 取組状況

DO

- (1) 学生選書による通年展示のほか、時機を得た企画（ノーベル文学賞受賞カズオ・イシグロ著作展示、ホーキング博士追悼展示）等を8種類実施した。
- (2) 学生マナー向上委員会がラーニング・コモنز内でのマナー向上の呼びかけと図書館利用に役立つ情報を盛り込んだ卓上プレートをラーニング・コモنز内の机上に設置している。
- (3) 「Step I」は2学部すべての1年生に実施した。「Step II」は在学生対象であったが、やや少ない受講者であった。
- (4) ラーニング・コモنزのスペースの積極的な利用を図るため、在校生が館内を案内するオリエンテーション用の動画を、学生アドバイザーに協力してもらい上映した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 話題になった人物（カズオ・イシグロ、ホーキング博士）に関する展示は、特に好評であった。
- (2) マナー向上の呼びかけの結果、利用する学生から苦情等が著しく減った。
- (3) 「Step I」（341名）の内容の理解は十分であった。「Step II」の受講者154名は、検索機能を活用できる域に達した。
- (4) 本年度4月から2月末日現在、入館者数延べ132,643名（前年度151,659名）。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 学園祭企画を中心に、学生アドバイザーの積極的な協力を期待して、さまざまな展示を継続して行う。
- (2) 本年度の内容を継続しつつ、さらに良い対応策があれば実行する。
- (3) ガイダンス内容については、映像等を使ってさらに充実させ、「Step II」の受講者を増やす。
- (4) ミニコンサートやゲーム企画等を充実させ、来館者数減少を食い止める。

以上

5 自己点検・評価

| | |
|-------|----------------|
| 関連委員会 | 自己点検・評価委員会 |
| 関連部署 | 学事部（学生総合相談支援室） |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

経営学部、教育学部とも、年度途中で外部評価委員を選出し、2月末から3月初めにかけて、各学部の外部評価委員会を開催し、各学部の取り組みを資料に基づき説明し、外部評価委員から意見聴取を行った。

認証評価に関する説明は年度内に2回開催され、来年度は報告書の草案作成が課題になると思われる。その際、本委員会が取りまとめの責任を果たす公算が高い。本委員会は認証評価を乗り切るために設置されたという経緯があり、29年度は本委員会がその機能を十分に発揮していくことが期待される。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

「淑徳大学 自己点検・評価に関する規程」及び「淑徳大学学部自己点検・評価委員会規程」に基づき、PDCAサイクルに留意しつつ、埼玉キャンパスの自己点検・評価活動を実施する。

2 具体的計画

PLAN

- 『平成28年度 大学年報』の発行をめざして、埼玉キャンパスの実務を統括する。
- 「教育・研究・管理運営に係る学部の目標・成果指標」平成29年度版について、前期末と後期末に経営学部・教育学部の両学部長から達成状況について報告を受ける。
- 各学科・委員会が教育・委員会等活動計画書、自己点検中間振り返り票、報告書の作成を通してPDCAサイクルを実施し、埼玉キャンパスの自己点検・評価活動を年2回実施する。
- その他として、平成30年度受審の認証評価（大学基準協会）に向けた取り組みを進める。

3 取組状況

DO

- 『平成28年度大学年報』は、予定通り9月に刊行され、本委員会の大学年報作成は計画通り、埼玉キャンパスの実務を統括できた。
- 「教育・研究・管理運営に係る学部の目標・成果指標」平成29年度版について、前期末と後期末に経営学部・教育学部の両学部長から達成状況について報告を受け、目標達成に向けて他の委員会との連携を得た取り組みができた。
- 各学科・委員会が教育・委員会等活動計画書を作成し、前期末に自己点検中間振り返り票を、後期末に活動報告書の作成を通してPDCAサイクルを年2回実施した。
- その他として、平成30年度受審の認証評価（大学基準協会）に向け、埼玉キャンパス共通の点検・評価内容に対して、本委員会が中心となり、自己点検・自己評価を実施し、認証評価統括室に資料等の提供を行った。

4 点検・評価

CHECK

- 埼玉キャンパス及び経営・教育の両学部に関する『平成28年度 大学年報』の原稿を期限内に提出することができた。
- 「教育・研究・管理運営に係る学部の目標・成果指標」平成29年度版の達成状況報告書の作成・提出に貢献した。
- 埼玉キャンパスの自己点検・評価活動は概ね予定通り達成された。
- その他として、平成30年度受審の認証評価（大学基準協会）に向け、認証評価統括室に資料

等の提供を行うことができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

大学基準協会の認証評価の現地調査が平成30年9月～10月頃に予定されている。それに向けて経営学部と教育学部が協力して準備を進めていく必要がある。また、「教育・研究・管理運営に係る学部の目標・成果指標」の目標を各委員会や各学科の具体的な目標として取り組んでいけるように、本委員会がその機能を十分に発揮していきたい。

以上

6 その他①〔免許資格取得支援〕

| | |
|-------|-----------------------------|
| 関連委員会 | こども教育学科、教員・保育士養成支援センター運営委員会 |
| 関連部署 | 学事部（教員・保育士養成支援センター事務室） |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

来年度は、以下のことが課題である。

- ・専任教員と教員・保育士養成支援センターの幼児教育コース担当専任教員、外部委託業者がさらなる強化のための組織体制づくりを行い、公務員保育士の就職学生を多くしていきたい。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) **成果指標** 教員免許状や保育士資格の取得を目指す学生に必要な一般的、専門的な知識や技能を身に付けるための支援を行う。
- (2) **成果指標** 教員・保育士養成にかかわる情報の提供と就職支援、並びに卒業生への支援を行う。

2 具体的計画

PLAN

(1)の目標について

- 受け入れ校（園・所・施設）や、教育連携をしている教育委員会・保育所・幼稚園等との連絡を密にし、それぞれのプログラムが充実したものになるように学生を指導する。また、教育連携をとる施設を見直し必要に応じて適宜増やす。
- 3年生が参加しやすい時間に対策講座を計画し、内容の充実を図るとともに、引き続き多くの学生の参加を促す。
- 学生の授業の空き時間にパネルシアター、手遊びや読み聞かせなどの講座を毎月定期的に企画・運営し、幼児教育コースの学生の積極的参加を促す。また、全学生にe-ラーニングを積極的に活用するよう指導し、基礎学力を向上させる。

(2)の目標について

- 公務員保育士に関する説明を行い、対策講座への参加を促し、公務員保育士試験合格者5名以上を目指す。
- 教員採用試験において受験者の5割以上の2次試験合格を目標に、徹底した個別指導を行う。同時に、ゼミ教員と教員・保育士養成支援センター教員とが連携を図り、在学生・卒業生への個別支援がスムーズにできるようにする。

3 取組状況

DO

(1)の目標について

- 連携している教育委員会・保育所・幼稚園等と連絡調整会議を開催し、教育連携の在り方に関する確認、意見交換を行い、連携強化・拡大を図った。一例として、三芳町主催「サマー・チャレンジ・スクール！」への学生派遣が実現、淑徳子育て支援プログラムには、延べ54名の学生が参加し報告会を実施した。
- 対策講座の効果が上がるように綿密な計画を立案し、新たにTA制度等の工夫を行った結果、例年以上に多くの学生が参加した。
- 前年度に始めた「養成センターだより」を通じた案内や、「わくわく遊び隊」が軌道に乗り学生が子ども達と触れ合う機会が多く生まれた。さらに、正課授業単位取得とe-ラーニング学習を組み合わせたことが、学生が基礎学力を獲得する際の一助となっている。

(2)の目標について

- ア ゼミ教員と教員・保育士養成支援センター特任教員とが教員・保育士養成支援センター連絡調整会議で、学生一人一人の就職状況に関する報告を行い個別指導の徹底を図った。その結果、公務員保育士合格者は目標を達成することができた。
- イ 同じく、教員採用試験に関して学生一人一人の学習状況の情報交換を行い、個別指導の徹底を図った。その結果当初の目標を達成することができた。

4 点検・評価

CHECK

- (1)教員免許状や保育士資格の取得を目指す学生に必要な一般的、専門的な知識や技能を身に付けるための支援が行われたことから、目標とした数値目標を達成することができた。
- (2)教員・保育士養成にかかわる情報の提供と就職支援に関しては、総合キャリア支援室との連携が強化され、目標とした就職率を達成することができた。また、卒業生については、大学祭のホームカミングデーで講演会を開催し、参加卒業生間の情報交換会などの支援事業を展開することができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1)教員・保育士養成支援センター特任教員の入れ替えと増員が図られたことから、各事業の効率と効果を上げるため、専任教員・養成センター特任教員・外部講師の連携強化を図る。また、教員採用試験受験者の60%以上合格、公務員保育士試験合格者10名以上を実現する。
- (2)専任教員・養成センター特任教員・養成センター事務局、及び総合キャリア支援室との情報の共有化を推進し、一人一人の学生・卒業生に対する更なる個別指導・支援の徹底を図る。

6 その他②〔ハラスメント防止〕

| | |
|-------|--------------------|
| 関連委員会 | ハラスメント防止委員会 |
| 関連部署 | 総務部、学事部（学生総合相談支援室） |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- ・研修会は、アンケート結果を参考に、次回の内容を検討する。講師の招聘を前提とせず、自前で準備できる研修内容も検討する。
- ・ハラスメント防止キャンペーンは前期後期ともに実施する。
- ・2年次以上の学生に対するハラスメント防止教育の必要性、実施について検討する。
- ・相談員の外部研修会参加に努める。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

学生と教職員、学生間での先輩と後輩等、様々な力関係が生じやすい環境から生じるハラスメントを防止するために、ハラスメント研修会、ハラスメント防止キャンペーン等に積極的に取り組んでいく。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 教職員向けの研修会を年2回実施し、啓発に努める。教職員向け本キャンパスでのハラスメント事件の内容に関する研修会を行い、啓発に努める。
- (2) ハラスメントの理解とその相談に関する情報提供を全学生に対して実施する。
- (3) Webからのハラスメント相談の動向を把握するとともに、相談しやすい体制となるように改善を進める。
- (4) 学生が学外や海外に出て行う研修・実習の際、および留学生の受入の際には、事前にハラスメント防止研修の実施をするとともに、引率教員の研修参加を義務付けて未然防止に努める。
- (5) ハラスメント防止委員会において、ハラスメントが発生した場合の危機管理体制と対応過程を確認し、シミュレーションを行う。
- (6) 初期相談のスキルアップと相談員の外部研修会参加に努める。また、相談員に必要な研修会を年度初めに1回実施し、相談援助技術を高める。

3 取組状況

DO

- (1) 教職員向けの研修会は、平成29年7月18日研修テーマ「過去の事例に学ぶ」、平成30年1月30日研修テーマ「ハラスメント防止研修、グループワーク」の2回実施した。
- (2) ハラスメントの理解とその相談に関する情報提供を5月の各ゼミでハラスメントのパンフレットを配付し、それに関する指導を行った。
- (3) 相談体制は整備させているが、本年度Webからのハラスメント相談はなかった。
- (4) インターンシップ、学外実習事前研修授業、短期海外研修事前研修、教育実習・保育実習の事前指導で学生へのハラスメント防止研修を行った。また、ハラスメント防止週間を設定して、ハラスメントポスターを掲示し、全学生に対して啓発を行った。
- (5) ハラスメント防止委員会において、前期のハラスメント研修会で危機管理体制と対応過程を確認した。
- (6) 相談員1名が8月に「キャンパス・セクシャル・ハラスメント全国ネットワーク集会」に参加し、研修を受講した。研修参加後には、相談員全員で情報を共有する機会を持ち、各々の知識を深めた。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 教職員向けの研修会を年2回実施し、目標を達成できた。
- (2) ハラスメントの理解とその相談に関する情報提供を全学生に対して実施できた。
- (3) ハラスメント相談はなかったが、相談しやすい体制になっているかを再検討していきたい。
- (4) 学生へのハラスメント防止研修は計画通り実施されているが、今後その研修内容について検討していきたい。
- (5) ハラスメント防止委員会の危機管理体制に問題はない。
- (6) 初期相談のスキルアップと相談員に必要な研修会は、計画通り実施できた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

昨年に引き続き、ハラスメント防止委員会が対応する事例はなかったが、ハラスメント防止委員会運用マニュアルを活用したシミュレーションを行い、対応できるようにしておきたい。更に、今後も、研修会の内容検討、防止キャンペーンの充実等を図っていきたい。また、学生に対してハラスメント防止のための教育の実施を検討していきたい。

以上

6 その他③〔保健衛生〕

| | |
|-------|---------------------------|
| 関連委員会 | 学生厚生委員会 |
| 関連部署 | 学事部（学生厚生、学生総合相談支援室、保健相談室） |
| 関連データ | |

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

【成果指標】 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮を行う。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 学生の心身の健康を良好に保つための相談体制等を整備する。
- (2) 心身の健康について学生の相談を受ける仕組みを整備する。
- (3) 学生の保健衛生を向上するための適切な配慮をする。
- (4) 学内での諸活動の安全・衛生への配慮をする。

3 取組状況

DO

- (1) 心のケアについては、キャンパスソーシャルワーカー、カウンセラー（臨床心理士）により、有意義な学生生活を過ごすために、相談を随時受け付けて、問題解決に向けて支援を行っている。また、身体のケアについては、保健相談室の看護師が随時対応にあたると共に、定期的に校医が保健相談室に在室し、相談を受けており、相談体制の整備ができています。
- (2) 心身共に健康な大学生活を過ごすために、学生総合相談支援室、キャンパスソーシャルワーカー、カウンセラー（臨床心理士）、保健相談室の看護師、校医による相談体制を整えており、アドバイザー（演習担当教員）や学生総合相談支援室が相談窓口の機能を果たしている。なお、保健相談室の開室は、月～金まで9：00～16：30である。
- (3) 学生の保健衛生を向上するために保健相談を常時行っている。また、健康指導や避妊指導など、気になる症状や心配なことの相談が可能になっている。
- (4) 学内での諸活動の安全・衛生への配慮では、喫煙、飲酒、薬物に関する注意・配慮を行っている。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 学生の心身の健康を良好に保つための相談体制等は、整備されている。
- (2) 心身の健康について学生の相談を受ける仕組みは、整備され、機能している。
- (3) 学生の保健衛生を向上するための適切な配慮を行っている。
- (4) 学内での諸活動の安全・衛生への配慮を行っている。

5 次年度に向けた課題

ACTION

学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮を行い、それらが有効に機能するように検討・改善していきたい。

以上

平成29年度 国際コミュニケーション学部 レビュー

1. 平成29年度振り返り

国際コミュニケーション学部は募集が停止されており、在籍者は文化コミュニケーション学科の4名である。

●キャリア支援（取り組み、成果）

教職協働体制の強化も効果をあげ、文化コミュニケーション学科在籍者の就職希望者全員が内定を取得し、就職内定率100%を達成した。同時に内定者／卒業者の就職内定率も100%を達成した。

就職内定率100%が達成できたのは、支援連携会議によるところが大きい。ゼミアドバイザーの指導に加え、学生総合相談支援室、総合キャリア支援室の職員からも適切な助言が与えられ、教職協働体制のもとで学生が必要とする支援がなされた成果と言える。

●成果活動（取り組み、成果）

文化コミュニケーション学科では卒業研究のためのルーブリックを作成しており、学生の卒業論文指導に活用した。

2. 次年度への課題、方策

文化コミュニケーション学科在籍者全員の卒業をもって、国際コミュニケーション学部の在籍者は0となった。

1996年の開設以来、学部として蓄積されてきた数々の教育的取り組みを既存学部に伝える方策を検討する。

以上

平成29年度 経営学部 レビュー

1. 平成29年度振り返り

【学部】

●学生募集（取組み、成果）

経営学部は、入学者数目標211名であったが、目標を上回る218名の入学者を確保することができた。さらに、経営学部設立以来未達であった収容定員（800人）も803名と初めて充足することができた。これは埼玉アドミッションセンターの努力、および教員との連携によりなしたものである。

今後の課題としては、定員管理の厳格化に伴い、各入試毎にいかに適正に合否を判断し、優秀な学生を確保し、目標定員数を確保するかである。

●キャリア支援（取組み、成果）

経営学部の就職希望者123名が全員内定を獲得した。これは、総合キャリア支援室の徹底的な学生フォロー、および教員との連携によりなしたものである。

しかし、せっかく就職しても安易に退職する学生がいる。今後の課題としては、入社後のフォローの強化である。また、筆記試験で行われるSPI試験の対策も強化する必要がある。

●正課活動（取組み、成果）

日本でも数校しか導入していないLAプログラム（Learning Assistant Program）を導入し2年目を迎えた。授業形態も整備されてきており、順調に推移している。また、LAプログラムを支援する先輩学生がGPA表彰の対象となるなど、新入生の見本となるような学生が散見される。

●正課外活動（取組み、成果）

経営学部では実践教育を重視しており、経営学科、観光経営学科を問わず、学生を現場へ引率している。正課も含めてではあるが、経営学部では29年度に102件、参加学生数1,098名の見学等を実施した。

2. 次年度への課題、方策

入学定員、収容定員を充足したが、退学者は40名と多い。希望を持って入学してきた学生が、退学するのは様々な理由があり、やむを得ないケースも多い。しかしながら、教職一体となって学生に徹底的に寄り添うことで、退学率を削減していきたい。

卒業するときに「淑徳大学に入って良かった」という学生を多く輩出したい。

以上

1 学生の受け入れ

| | |
|-------|---------------|
| 関連委員会 | 入試委員会 |
| 関連部署 | 埼玉アドミッションセンター |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- ア 経営学部においては、平成28年度は目標を達成した。次年度は本年度の活動をさらに充実させていく。課題は、その魅力を受験生にいかにか具体的に説明すべきかである。
- イ 現在プロジェクトにより経営学部の魅力を明確にし、他大学との差別化を図るパンフを作成中。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 経営学部目標入学者数

- ・経営学科 116名
- ・観光経営学科 95名
- ・学部合計 211名

2 具体的計画

PLAN

- アドミッションセンターと協力して目標を達成する。
- ・接触者（オープンキャンパス参加者、ガイダンス対応者、資料請求者など）の出願率の向上。
- ・ホームページ、学部ブログ、DMなどを通じての情報発信の充実。
- ・「学生募集活動計画」に基づいて、大学入試スケジュール、高校内での進路指導等に合わせ、各時期（5期）の目的を明確にした活動を行なう。
- ・競合する同学部系統の大学を明確にした、受験対象者への情報の発信。

3 取組状況

DO

- ア オープンキャンパス実施回数：10回
- イ オープンキャンパス参加者数：789名（高校生のみ）
- ウ 経営学科入学者数：122名
- エ 観光経営学科入学者数：96名
- オ 経営学部入学者数：218名

4 点検・評価

CHECK

(1) 経営学科

経営学科は、入学者数目標116名であったが、目標を上回る122名の入学者を確保することができた。

(2) 観光経営学科

観光経営学科は、入学者数目標95名であったが、目標を上回る96名の入学者を確保することができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

経営学部においては、平成29年度は目標を達成した。しかし、定員管理の厳格化により、年度後半の入試においては合格者を絞らざるをえなかった。来年度は、定員管理の厳格化を踏まえたきめ細かい対応が必要とされる。

以上

2 教育課程①〔経営学科〕

| | |
|-------|------|
| 関連委員会 | 経営学科 |
| 関連部署 | 学事部 |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) アクティブラーニングを取り入れるなど、引き続き各授業で改善を図る。
- (2) 一部単位を取得できない学生もいるが、再履修コースで徹底を図る。
- (3) ゼミ単位に企業見学の機会を増加させ、引き続き専門科目に対する興味を引出す。
- (4) 年2回の成績不振者面談に加えて、ゼミ単位に途中で担当学生の出席率をチェックし、問題の早期発見と早期指導を行う。
- (5) 事前・事後学習の学習時間が増えるように、授業を工夫する。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 学位ごとの学習成果における測定指標の検討
- (2) 科目間連携についての検討
- (3) 手厚い学生支援体制の充実
- (4) 個別支援の充実
- (5) 研究成果の公開

2 具体的計画

PLAN

- (1) について
卒業論文の研究発表会を実施し、その際には複数の教員で審査をする。実施率は80%を目標とする。
- (2) について
科目間連携についての検討会を開催する。年1回開催を目指す。
- (3) について
アドバイザーによる面談を実施し、退学・除籍率5%以下とする。その際には、学生総合相談支援室と連携し、支援体制を検討する。面談または連携の実施率90%を目指す。
- (4) について
アドバイザーが学生の進捗状況を確認する。本人のモチベーションを確認しながら個別支援を実施する。卒業まで支援を続ける。
- (5) について
論文の投稿を推進し、研究の促進を図る。年1本以上を目標とする。

3 取組状況

DO

- (1) について
全学科4年生を対象に、卒業研究の発表会を開催し、学科ごとに複数の教員により、ルーブリックを取り入れ審査を行った。
- (2) について
10月の学科会後に学科全教員による科目間連携についての検討会を開催した。
- (3) について
前期と後期中頃に学生の状況を把握し、学部長へ報告した。退学除籍率は、学生数を4月1日基準とし、4月1日から3月末日までの退学と除籍者数を計算すると、学生数は418名、退学除籍者数は27名、退学除籍率は6.5%であった。

(4)について

アドバイザーがゼミ学生の状況を把握する体制を確立した。学生の状況に関しては、学生総合相談支援室や総合キャリア支援室と連携して情報の共有を行なった。

(5)について

平成29年度に年報を創刊し、ほぼ全教員が論文を投稿した。

4 点検・評価

CHECK

(1)について

今年度の振り返りを行い、継続した取り組みによる改善をする。

(2)について

議論するテーマを絞り、実施に向けた取り組みを行う。

(3)及び(4)について

学科教員の協力により体制が整ってきたので、問題点を洗い出し、改善のための課題を設定する。

(5)について

各教員の研究テーマに従って継続的に論文を執筆する。

5 次年度に向けた課題

ACTION

今年度は、目標・成果指標に基づいた学科の施策の実施へ取り組んだ初年度にあたる。そのため、施策を導入し、体制を整え実施することが主たる目的であった。次年度からは、引き続き、目標・成果指標に基づき導入した施策を継続的に取り組み、改善することが目標となる。加えて、その達成状況に基づき、新たな課題の設定と解決策の実施が必要である。

(1)学位ごとの学習成果における測定指標の検討

(2)科目間連携の実施

(3)学生支援の充実

(4)研究成果の公開

以上

2 教育課程②〔観光経営学科〕

| | |
|-------|--------|
| 関連委員会 | 観光経営学科 |
| 関連部署 | 学事部 |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 1年生は、必修科目を中心に事前・事後学習をして受講してほしい。2・3年生は、必修科目・観光専門科目を中心にしっかり受講してほしい。4年生は早めの卒業研究テーマの完成を期待する。
- (2) 出席率を維持するための要因と改善点等を学科会で検討する必要がある。
- (3) GPA成績等の成績不振者を中心に対策が必要である。
- (4) 観光経営学科の授業満足度は、授業アンケート結果等を参考にして学科会で検討する必要がある。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 活動方針

観光経営学科は、4年間で観光産業において観光マネジメント能力を形成するための専門的な知識と実践的な能力、および社会人基礎力を備えた人材を育成するための教育を行う。

(2) 目標

- ア 観光経営学科の授業の満足度は、70%以上とする。
- イ 退学・除籍率を5%以下とする。
- ウ 平均GPA2.0以上を目標とする。
- エ 正課外プログラム学生参加率80%以上とする。
- オ 専門能力の修得力の向上。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 観光経営学科所属の教員同士の情報の共有化を図り、協力体制を強化する。
- (2) 企業見学、観光地見学、観光イベント見学等計画的に学外実習（短期海外研修を含む）を履行するとともに、講義科目との連携を図る。（1年生および2年生）
- (3) 「観光経営学入門」、「入門セミナー」等を通し、学習の習慣を身に付けることと、レポート作成方法を学ぶこと。（1年生）
- (4) 「キャリアデザイン」教育による社会人基礎力の向上を目指す。
- (5) 個別学生支援体制の確立
- (6) 専任教員の担当科目に関わる論文等年1本以上。
- (7) オープンキャンパスにおける教員等による受験生との面談の結果、安定的な入学者確保を達成する。

3 取組状況

DO

- (1) シラバス記載内容の精査と適切な授業難易度の設定を行った上で、近年のわが国における観光の動向を踏まえた講義内容の更新と講義資料の充実、アクティブラーニングの導入等授業方法の工夫を図るとともに、適切な成績評価に努めた。
- (2) 入門セミナー、観光経営専門演習等の指導を通じて学内外での悩みや問題を抱える学生の早期発見に努めるとともに、対象学生の個別指導・支援の充実に取り組み、退学者の削減に努めた。

- (3) 同じく入門セミナー、観光経営専門演習等のアドバイザーがGPA不振者面接を行い、各学生の志向に即した履修指導や学習方法に関するアドバイスを行った。前期は9名、後期は17名の学生に対して面接を行った。
- (4) 正課の学習を補完し実践学習の機会を充実させる観点から前期3コース（ロイヤルパークホテル、秩父市、川越市）、後期1コース（インターコンチネンタル東京ベイ）の学外見学を実施した。また、サークル活動や総合キャリア支援室が主催する資格取得講座への参加を促した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 授業アンケートによる「授業に対する評価」の設問での満足度は前期84.3%、後期86.3%であり、目標の70%以上を達成した。
- (2) 退学・除籍者は13名で、在籍学生338名（学生数4月1日現在）に対する比率は3.8%であり、目標の5%以下を達成した。
- (3) 後期のGPA平均値は1年生2.26、2年生2.43、3年生2.44であり、学年によらず目標のGPA平均2.0以上を達成した。
- (4) 正課外プログラムについては、140名がサークルに所属し、総合キャリア支援室主催の資格取得講座に延べ134名が参加した。両者合計で在籍学生338名に対して81.1%の学生が正課外プログラムに参加しており、目標の80%を達成した。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 授業の満足度は70%以上を達成しているが、内訳としては「やや満足」が「大いに満足」を大きく上回るため、後者の比率を高める。
- (2) 定員管理の厳正化の観点も加味し、退学・除籍率についてさらなる低減を図る。
- (3) 平均GPAを維持することとあわせて、GPA不振者の比率削減を図る。

以上

3 研究活動

| | |
|-------|------------------|
| 関連委員会 | 経営学部 |
| 関連部署 | 高等教育研究開発センター、総務部 |
| 関連データ | |

| | |
|---|--------------------|
| 平成 28 年度大学年報 | 【次年度に向けた課題】 |
| (1) 「経営学部紀要」の投稿を契機に、より研究を促進する風土を醸成していく。 (2) 研究費助成の制度変革に伴い学長裁量による競争的研究助成が新設された。採用されれば高額な研究費を伴う研究を行うことも可能であり、積極的な応募が望まれる。 (3) 学内だけではなく、外部研究資金である科研費へも積極的に応募して欲しい。 | |

1 平成 29 年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 活動方針
 教員の研究の推進
- (2) 活動目標
 教育学部と共同で作成する「淑徳大学教育学部・経営学部研究年報」の創刊

2 具体的計画

PLAN

- (1) 各教員の研究計画の作成と計画の実行
- (2) 教育学部と共同で作成する「淑徳大学教育学部・経営学部研究年報」への学部全教員の投稿

3 取組状況

DO

「淑徳大学教育学部・経営学部研究年報」については、平成30年3月に創刊号を発刊した。経営学部の教員17名（94%）から、論文14件、研究ノート3件、実践報告2件で合計19件が掲載された。

4 点検・評価

CHECK

ほぼ全教員から、教員数を上回る投稿があり、研究促進の風土が醸成されつつある。

5 次年度に向けた課題

ACTION

さらなる研究促進のために、研究年報への全員投稿と、その他1本以上の論文執筆が望まれる。3名の若手教員の入職を得ており、さらに、学長裁量による競争的研究助成や科研費へも積極的に応募することが望まれる。

以上

平成29年度 教育学部 レビュー

1. 平成29年度振り返り

(1) 学生募集（取組み、成果）

オープンキャンパス参加者数は昨年度より約60名減少し、722名であった。特に、高校1・2年生の参加が大きく減少した。そして、受験者が結果的に昨年度より111名減少し、324名であった。入学定員管理を行う上で入学者を入学定員の1.04として入学試験を実施してきた。その結果、102名の入学者を確保することができた。18歳人口が減少するなか、オープンキャンパスの参加者を増やしていくことが学生募集の重要な課題である。

(2) キャリア支援（取組み、成果）

2期生の卒業生を出した。就職内定率（内定者／就職希望者）は99.0%であった。主な内定先は、小学校教員（埼玉県・東京都など）、幼稚園教員、保育士、公務員（公務員保育士を含む）、サービス業等である。教育の資格を生かした就職者は70.3%であり、教育関連産業も含めた就職者は75.2%であり、資格を生かした高い就職を達成することができた。今後も入学してきた学生の教育関係に就職したいという希望を持続・高めるための努力をしていきたい。

(3) 正課内活動（取組み、成果）

特徴的な授業科目は教育現場に出向いて実習を行うフィールドスタディーである。1年次の終わりにフィールドスタディーⅠ（必修）があり、小学校と幼稚園に分かれて実習を行う。2年次のフィールドスタディーⅡ（選択）では、特別支援学校や特別支援学級で障がいのある子どもに対する支援を学び、フィールドスタディーⅢ（選択）では、4年次に教職インターンシップとして実施してきた。その結果、学生一人一人の実践的指導力が確実に向上した。

(4) 正課外活動（取組み、成果）

初等教育コースでは、小学校教員採用試験対策講座を1年間計画的に実施し、小学校教員採用試験を32名が受験した。1次試験では26名(65.4%)が合格し、2次試験では18名(56.3%)の学生が合格し、よい成果を上げた。また、幼児教育コースでは、公務員対策講座を実施し、公務員保育士を17名が受験し、9名が合格した。最終合格率が52.9%と、かなり健闘した。

また、教員や保育士への意欲向上やスキルアップを目指した取り組みを行っている。

具体的には、初等教育コースでは、夏季淑徳教師養成塾を実施し、1年生から3年生まで52名の学生が参加している。幼児教育コースでは、淑徳子育て支援プログラムに2年生が44名参加している。そして、毎月定期的に行っているパネルシアター、手遊びや読み聞かせなどの講座に延べ約800名が参加するなど、幼稚園・保育所で必要な実践力を身に付けるのに役だっている。

2. 次年度への課題、方策

本学部の学生は、感恩奉仕の精神が身に付き、学校ボランティアや三芳町・富士見市の子ども大学、地域の子育て支援等で遺憾なくその能力を発揮し、地域から高く評価を受けている。

次年度の課題は、教育学部の魅力を強くアピールして、オープンキャンパス参加者を増やし、一般入試やセンター入試への受験者を増やす工夫をしていきたい。

以上

1 学生の受け入れ

| | |
|-------|---------------|
| 関連委員会 | 入試委員会 |
| 関連部署 | 埼玉アドミッションセンター |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- ア 定員を充足し且つ105名を超えないというのは大変困難。
- イ 初等教育コースの入学者数を増やすための工夫をしていきたい。学校インターンシップに関するパネルディスカッションは午前と午後開催したが、午後は毎回参加者が減少した。
- ウ 一般入試やセンター入試への受験者を増やすことができるように、HPを活用し高校生向けの情報発信を工夫したい。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 方針：〈相互に助け合う、共生という淑徳の福祉マインドに基づく実践的指導力と感恩奉仕の精神の育成を通して、淑徳人らしさを身に付ける。〉という教育方針のもと、学生自らが学ぶ実学教育を行い、教員・保育士に対する強い興味と関心をもつ生徒を募集し、教員・保育士等への就職活動の指導を積極的に行う。
- (2) 目標：教員・保育士に対する強い興味と関心をもち、高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している学生、104名程度を確保する。

2 具体的計画

PLAN

- ・教育学部のHP用資料を更新し、高校生向けに新しい情報を提供する。
- ・オープンキャンパスでは、初等教育コース、幼児教育コースを希望する学生のニーズに合わせた企画を開催し、参加者数700名を目指す。

3 取組状況

DO

- ・オープンキャンパスでは、初等教育コース、幼児教育コースを希望する学生のニーズに合わせた企画をし、参加者数722名と昨年より62名減少した。また、1・2年生の参加が164名と昨年より61名減少している。
- ・入学者が102名であった。

4 点検・評価

CHECK

- ・オープンキャンパス参加者数が減少した要因の分析が必要である。
- ・入学者の目標は達成できた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・前年度の入試結果などが参加者数の減少につながっていると考えられるが、その要因を分析して対策を取る。
- ・一般入試やセンター入試への受験者を増やすことができるように、HPを活用し高校生向けの情報発信を工夫する。

以上

2 教育課程〔こども教育学科〕

| | |
|-------|---------|
| 関連委員会 | こども教育学科 |
| 関連部署 | 学事部 |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

次年度は、教員・保育士として必要な基本的な資質・能力、特に日本語検定、数学検定や専門科目に関する基礎学力のより一層の向上を図ることを課題としたい。また、初等教育コースを希望する高校生の一般入試やセンター入試への受験者を増やす工夫を、本年度に引き続き工夫していきたい。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 方針：〈相互に助け合う、共生という淑徳の福祉マインドに基づく実践的指導力と感恩奉仕の精神の育成を通して、淑徳人らしさを身に付ける。〉という教育方針のもと、学生自らが学ぶ実学教育を積極的に行う。
- (2) 目標：
- ア 学生が自ら学ぶための支援プログラムを実施し、多くの学生が参加して実践的指導力や専門性を高めていけるよう運営する。
 - イ 基礎学力を高めるとともに、アクティブラーニングを取り入れて、授業外学習時間を増やせるような授業や学習成果発表会を実施する。

2 具体的計画

PLAN

- 目標ア：学生が自ら学ぶための支援プログラムを実施し、多くの学生が参加して実践的指導力や専門性を高めていけるよう運営する。
- 目標イ：基礎学力を高めるとともに、アクティブラーニングを取り入れて、授業外学習時間を増やせるような授業や学習成果発表会を実施する。

3 取組状況

DO

- 目標アについて：「淑徳教師養成塾」参加者延べ136名、「淑徳子育て支援プログラム」44名の学生が参加している。
- 目標イについて：初等教育コースでは、「淑徳教師養成塾」で学んだ成果発表会を、金曜日の学年アワーの時間に5回行った。1年生ゼミでは、e-ラーニングで3科目以上100点を目指した取り組みを行い、ほぼ全員が達成した。

4 点検・評価

CHECK

目標ア、イともおおむね順調に取組を実施でき、目標を達成した。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- これまで実施している内容に加えて、英語教育や幼児体育指導員のプログラムの参加学生を増やす。
- 教員・保育士として必要な基本的な資質・能力、特に日本語検定、数学検定や専門科目に関する基礎学力のより一層の向上を図ることを、引き続き課題とする。

以上

3 研究活動

| | |
|-------|------------------|
| 関連委員会 | 教育学部 |
| 関連部署 | 高等教育研究開発センター、総務部 |
| 関連データ | |

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

平成30年度再課程認定に向けた業績追加のために、『教育学部研究年報』の刊行を年2回行う必要がある。また、専任教員に科研費をはじめとする外部資金に積極的に応募してもらうために学部内での科研費申請のための研修会を実施していきたい。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 研究年報を予定通り刊行する。
- (2) **成果指標** 科研費をはじめとする外部資金に積極的に応募するとともに、多くの教員が積極的に応募するように働きかける。
- (3) 文部科学省の再課程認定に向けて、各教員が研究業績のチェック・整理、追加を行う。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 『教育学部研究年報』3号、『教育学部・経営学部研究年報』創刊号を刊行するまでの工程表を作成し、それに基づいて編集・刊行作業を遂行する。
- (2) 科研費をはじめとする外部資金への応募を、専任教員数の30%とする。
- (3) 各教員が研究業績のチェック・整理を行い、必要に応じて、授業テキストや研究年報等で研究業績の追加を行うように働きかける。

3 取組状況

DO

- (1) 『教育学部研究年報』3号、『教育学部・経営学部研究年報』創刊号を刊行するまでの工程表を専任教員、兼任・兼任講師、教員・保育士養成支援センター特任教員に案内し、研究論文の投稿を促した。
- (2) 専任教員が科研費等の外部資金に応募するように、学科会内で個別相談を実施した。
- (3) 各教員が研究業績のチェック・整理を行い、平成30年度再課程認定の申請に向けた業績追加に関する授業テキスト等を作成し、研究業績の追加を行った。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 2017年9月『教育学部研究年報』3号の刊行ができた。また、2018年3月『教育学部・経営学部研究年報』創刊号を刊行した。
- (2) 専任教員5名が科研費の外部資金へ応募し、目標を達成した。また、文部科学省の平成29年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業—新たな教育課題の必修化のための研究事業—の委託を受けた。
- (3) 再課程認定の申請に向けて、各教員が研究業績のチェック・整理、追加を行い、申請に必要な提出書類を完成させることができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 全教員が年2本の研究論文等を執筆できる風土を醸成していく。
- (2) 科研費をはじめとする学内・外部資金に積極的に応募してもらうために、学部内での研究費申請のための研修会等を実施していきたい。

以上